

バリアフリー推進レポート

地元小学生が広島空港でバリアフリーについて学ぶ

中国運輸局では、「障害の社会モデル※¹」、「心のバリアフリー※²」の啓発とその理解を深めることを目的として、学生や社会人を対象としたバリアフリー教室・各種啓発活動を継続的に実施しています。

このたび、三原市立本郷西小学校4年生を対象に、広島空港におけるバリアフリー教室を開催しました。

参加した児童たちには、空港内のバリアフリー設備の見学や車椅子の体験を行うとともに、展望デッキに出て、飛行機や空港のバリアフリーについての疑問に答えてもらうなどして、障害者の日常における障壁を理解し、自らに何ができるのかを考えてもらいました。

※¹ 障害の社会モデル…障害は個人の心身機能の障害と社会的障壁の相互作用によって創り出されているものであり、社会的障壁を取り除くのは社会の責務である、とする考え方。

※² 心のバリアフリー…様々な心身の特性や考え方を持つすべての人々が、相互に理解を深めようとコミュニケーションをとり、支え合うこと。
バリアフリー教室は令和2年のバリアフリー法改正に伴い「教育啓発特定事業」に位置付けられ、取組を強化しています。



【開催概要】

- 日 時：令和7年6月27日（金）13：20～15：00
- 場 所：広島空港旅客ターミナルビル2階
- 主 催：国土交通省 中国運輸局
- 協 力：三原市立本郷西小学校、三原市社会福祉協議会
広島国際空港株式会社
- 参加者：三原市立本郷西小学校4年生 26名
- 内 容：①車椅子体験 ②空港内バリアフリー設備見学 ③バリアフリークイズ
④三原市社会福祉協議会の講話 ⑤広島空港職員から空港説明



車椅子体験

高い場所や低い場所にあるものを取りにくいことや、わずかな段差でも車椅子が引っかかり、移動が大変になるなど、車椅子利用者が日常から感じている困難さを体験しました。

バリアフリークイズ

バリアフリーの知識に関するクイズを行いました。事前学習をしていたようで、張り切って参加してくれました。

バリアフリー設備見学

空港内にあるバリアフリースイレやベビーケアルームのバリアフリー設備について見学しました。
新しく知ったことは積極的にメモをとる様子も見られました。





三原市社会福祉協議会さんの講話

「一番怖いことは、無関心になること。心のバリアフリーが進んでいくと安心感につながる。」と話され、児童たちは真剣に聞いていました。

広島空港についての説明

広島市内にあった広島空港が1993年10月に三原市に移転し、約30年の歴史があることを話され、児童たちは、驚きながらメモを取っていました。



児童たちからの質問について

○補助犬は機内に乗ることはできるのか？

⇒機内に乗ることができ、機内では足元に乗せる。空港会社によっては、証明書が必要な場合もある。

海外の場合は、それぞれの法律に従い書類を提出する必要がある。

○外国の方の耳が聞こえない場合のコミュニケーションの取り方は？

⇒スマホの翻訳機能やポケトークという小型翻訳機を使ってコミュニケーションをとる。

手話を使う場合もあるが、手話は日本と外国で少し違う。



 世界共通の手話
「I LOVE YOU」



空港見学中に
飛行機が着陸しました

児童の皆さんからお手紙をもらいました



新しく知ったこと

- ・車椅子の人は、自由に動けない。ほかに人に手伝って貰わなきゃいけないということに気づきました。
- ・下の物や上の物が取りにくいから大変なんだなということが分かりました。
- ・段差や階段は車椅子の人も車椅子を押す人も大変なことが分かりました。

- ・バリアの意味や、障害の人はこんなに大変なことが分かりました。
- ・ヘルプマークのことについて、見た目では、分かりづらい人が障害を周りの人に知らせるマークだということを知れた。
- ・周りには、バリアフリーが使われている物はたくさんあるのだと思いました。



これから生かしたいこと

- ・バリアフリーは、心のバリアをなくすためなんだと学習したので、協力していきたいです。
- ・耳や目が不自由な人を見かけたら、荷物を持ったり、助けてあげたいです。
- ・困っている人がいれば、その人の気持ちを想像して本当に困っているか考える。
- ・障害者の方や高齢者の方がいたら席を譲ってあげたり、コミュニケーションをとったりしたいです。

